

令和5年度 結果の分析及び今後の改善策

(中間・最終)

安浦中学校区 校番 32 学校名 呉市立安浦小学校

重点	d 中期(3年間) 経営目標	e 短期(今年度) 経営目標	l 結果の分析 (結果と課題をこう考えます)	m 今後の改善策(案) (こう改善します(案))
<p>***</p> <p>確かな学力</p>	<p>主体的・対話的で深い学びを実現し、確かな学力の向上を図る。</p>	<p>思考力・判断力・表現力を高める。</p> <p>学びの基礎・基本を定着させる。</p>	<p>思考力・判断力・表現力を見取るテストで平均70%以上の児童の割合は、国語科が84%、算数科が58%であった。</p> <p>国語科では、全学年で、授業や家庭学習において、文章に線を引いたり、印をつけたりして情報を整理しながら読み取るよう継続して指導した。また家庭学習(文章問題)の答え合わせの際に、読み取り方や答え方のポイントを丁寧に説明したことが改善につながったと考える。</p> <p>算数科では、問題の全体がイメージできずに一部の言葉で判断し、正しく立式できない児童が多い。思考力・判断力・表現力を見取る活用問題では、最初の問題の答えが違つた次の問題以降も不正解となることが多いため、得点状況が両極化している。問題文で問われていることは何かを読み取ることに課題があり、基礎的な計算力が身に付いていないこともあって得点が伸びない状況にある。</p> <p>2学期末テストの知識・技能で60点未満の児童の割合は、国語科が5%、算数科が6%、平均して5.5%と中間報告より5ポイント上がった。</p> <p>国語科では、全学年を通して、漢字ノートや連絡帳の日記欄に、新出漢字を用いて短文を作る活動を設定した。漢字テストを継続して行い、家庭学習に語彙や文法などの問題を多く取り入れたことなどの活動も効果的であったと思われる。</p> <p>国語科・算数科ともに、AIドリル「キュービナ」の活用を重点的に行った。月ごとに、正答率をもとにした金賞・銀賞・銅賞に該当する児童の名前を掲示することで自分自身の頑張りを伸ばし、意欲につながったと考える。一方で、基本的な計算問題が解けない児童も一定数おり、前学年を含めこれまでの学習の積み上げができていない実態があげられる。</p>	<p>国語科・算数科ともに、引き続き、文章問題を解く際に、まず問題文をしっかり読むことを徹底する。さらに、分かっていることや問われていることに線を引いたり丸で囲んだりして、整理して読み取ることを習慣付ける。</p> <p>算数科では、ペアやグループで自分の考えを説明させたり、分からないところを質問したりするなど友だちと学び合う場を設定した後、全体で共有する。また、引き続きくぐぐんタイムやくぐぐん教室などを通して、九九、筆算、わり算など)を児童に配付し、自力解決の際に確認できるようにする。</p> <p>週に1度の個別指導「くぐぐん教室」で児童に行っている効果的な手立てを、学校全体へと広げ、基礎的・基本的な学力を付けていく。</p>
<p>*</p> <p>豊かな心</p>	<p>感謝と貢献の心をもち、協働して取り組むことのできる心を育む。</p>	<p>礼節と規範意識を醸成する。</p> <p>仲間や学校、地域への感謝・貢献の心を育てる。</p>	<p>パワーアップ週間と生活目標を関連させ、「あいさつ」「くつろえ」を中心にに取り組んだ。その結果、パワーアップカードで肯定的に評価した児童の割合は、89%であり目標達成することができた。前回の反省を生かし、毎日自己評価したり縦割り班で相互評価したりすることに取り組んだ成果と考える。また、学級毎の結果を放送で紹介することで意識を高めることができたといえる。</p> <p>「やくだち名人アンケート」の「学校の役に立てた」「学級の役に立てた」「地域や家庭で役に立てた」の項目における肯定的に評価した児童の割合は、95%であった。学校生活や家庭生活の中において適切に評価される機会があったことで、より意欲をもつ児童が多かったといえる。</p>	<p>パワーアップ週間だけでなく、生活目標や行事等と関連させて個々の意識を高め定着させる取り組みをしていく。そのために、まず実態に合わせて年間の生活目標を見直していく。また、6年生を中心とし各学級での具体的な取組を考え、学校全体に広げていく場をつくる。</p> <p>学校生活や家庭生活と比べると、「地域の役に立つ」という意識の低さが課題である。行事や総合的な学習と関連させ、相手や目的を具体的にイメージしながら取り組み、振り返ることによって次につなげることが必要である。</p>
<p>**</p> <p>防災教育</p>	<p>「自分の命は自分で守る」力を育成するとともに、地域の防災に貢献する。</p>	<p>「自分の命は自分で守る」力を育成し、保護者や地域の防災意識を高める。</p>	<p>肯定的評価は約86%で達成度も86であった。各学年が行った防災に関する授業や広島県の防災講座の積極的な受講等、継続的な取組により中間報告より達成度が6上がった。全校を挙げて取り組んできた成果が出ていると言える。ただし、呉市が目標とする100%には届いていない。</p> <p>肯定的評価は67.4%で達成度は83であった。中間報告に比べ達成度は6下がった。その原因は、6月の全校防災参観日以来、保護者の防災への関心を直接高めるような取組の機会が無かったり、情報発信が不足したりしていたことであると考える。</p>	<p>ほとんどの学級で90%を越える肯定的評価が出ているので、残りあと数%の児童が肯定的評価に変わるよう、指導を徹底する。また、児童が興味関心をもって主体的に取り組むような学習内容を計画していく。そのために広島県の防災講座を引き続き積極的に受講する。</p> <p>改善方法案は3点ある。1点目は6月に行った全校による防災参観日を2学期に行うようにすること、2点目は学校の予算を活用して、防災に関する備えになる物品を全家庭に配付すること、3点目は各学級で行った防災に関する授業や受講した講座に関する情報を「防災通信」という形でタブレットで配付する。</p>
<p>*</p> <p>働き方改革</p>	<p>業務改善を進め、働き方改革を推進する。</p>	<p>タブレットを効果的に活用し、児童と向き合う時間を確保する。</p>	<p>教職員アンケートで、「児童と向き合う時間が確保されている」と回答した割合は92%で、上半期より上回った。年度当初に比べ、時間外勤務が少なくなる傾向にあり、業務量の減少が教職員のゆとりにつながっていると考えられる。</p> <p>4月から1月までの時間外勤務の平均が45時間を越えなかった教職員の割合は、70%であり、上半期よりは上昇したが、目標値を下回った。1年間を通して、45時間を超える教職員が多い月は4~6月に集中しており、年度初めの業務量の多さに課題があると考えられる。</p>	<p>引き続き、毎月の三委員会で、全教職員からの意見を出し合い、企画委員会で検討し、継続的に改善を図る。</p> <p>また、来年度に向けて、どのように業務改善を進めていくか、今年度中に計画的に検討しておく必要がある。</p>